

未来社会を切り拓く資質・能力の育成

－関わり合い 個を磨き 笑顔輝く 授業の創造－

会津若松市立謹教小学校 教諭 中島 純子

1 研究の趣旨

学習指導要領総則には、「学習の基盤となる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することや、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる」と明記されている。

そこで、本校では、教科等横断的な学習を充実させるために、各教科の見方・考え方の分析を行い、どの教科においても活用させたい、各学年で中核となる思考スキルを設定したり、生活科や理科、社会科、総合的な学習の時間を中心とし、他教科との関連を明確にした単元配列表を作成したりしてきた。これらを活用して授業を行うことにより、未知の状況に対応できる学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）が身に付くであろうと考え、次のような仮説を設定した。

各学年で中核となる思考スキルを意図的に活用させながら、教科等横断的な学習を取り入れていくことにより、一つの教科に限定されない、学習の基盤となる資質・能力を身に付けられるだろう。

2 研究の概要

(1) カリキュラム・マネジメントの推進（資質・能力の分析と、各学年で中核となる思考スキルの設定）

- 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）とはどのような力なのかを明確にして、全職員で共通理解を図る。
- 学習指導要領で求める教科の本質を捉えるために、各教科が小学校6年間で育成を目指す資質・能力と、各教科ならではの見方・考え方を整理して、各学年で重視されている考え方を、各学年で中核となる思考スキルとして設定した。そして、各教科等の授業において思考を促す場面では、各学年で中核となる思考スキルを意図的に活用するよう工夫した。

(2) 教科等横断的な単元構想の工夫と授業ナビの活用

- 単元配列表を作成することによって、学習内容を俯瞰的に捉え、計画的な指導ができるようにする。学習の基盤となる資質・能力の発揮が期待される教科・領域を「中心の教科・領域」として設定し、この中心教科・領域に他教科の学習を関連付けることで、教科等横断的な単元構想を行うことができるようにする。
- 謹教小学校授業ナビの活用を図る。授業づくりにおける指導方法の重点を冊子にまとめ、全職員が共通理解を図ることにより、研究を学校全体で共通実践することができるようにする。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 単元配列表を作成して、総合的な学習や社会科、理科、生活科を中心教科とし、他教科で関連のある単元を結び付けたことにより、各教科等で育んだ資質・能力を働かせながら中心教科の学習に取り組む子供たちの姿が数多く見られるようになった。また、学んだことを日常生活にも活用しようとする意欲が高まった。
- 各学年で中核となる思考スキルを設定し、さらに、それらの思考活動を促すための発問・指示について謹教小学校授業ナビに記載して共通理解を図ったことにより、深く考える子供たちの様子が見られるようになった。
- 中心教科と、他教科が関連付くように、教室環境を整えたことで、子供たちの学習意欲が高まったり、持続したりすることにつながった。

(2) 今後の課題

- 学習の基盤となる資質・能力と教科の資質・能力の関連性の明確化を図っていく必要がある。